



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子
トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の
名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リップパー

3月までの運用成績

リスク分散のヒントを読み取る

3月までの投資信託の運用成績は、新型コロナウイルスの感染拡大で、値下がりした金融市場の影響がくっきりと浮かび上がりました。

純資産残高が10億円以上で上場投資信託(ETF)以外のオープン投信について、リップパーの投資対象別に騰落率をまとめました=大きい表。過去6カ月(2019年10月~20年3月)は、主要分類で軒並みマイナス。過去5年間をみても、IT(情報テクノロジー)株や、日本の中小型株など特定の投資対象がプラスを維持しただけです。

また「番外編」として、過去6カ月間の平均騰落率がプラスだった主な分類を挙げました。どれも分類内の合計の純資産残高が小さめで、主要分類には入っていません。コロナショックのような「有

事」にも、値上がりする投資対象があることを知っておくと、今後の分散投資の参考になると思います。「コモディティ型 貴金属」とは、金(ゴールド)などを対象とする投信です。

ここから学べるリスク分散の方法は、例えば、同じ株式型でもIT(情報テクノロジー)株とバイオ株を組み合わせる、株式型のほかにコモディティ型も持つ、など。投資方針に応じてさまざまな方法があるので、機会があれば解説したいと思います。

個別の投信では、運用成績上位は昨年からの常連銘柄です=小さい表。ですが、5年間の騰落率は、半年前の同じ集計に比べて半減していません。なお、今回の騰落率ランキングは、オルタナティブ型の投信を除外しています。

■投信主要分類別の平均騰落率(2020年3月末時点)

投資対象 (リップパーによる分類)	過去6カ月 (%)	過去5年 (%)	
株式	業種別 ヘルスケア	-0.34	-5.81
	業種別 IT(情報テクノロジー)	-3.13	38.01
	米国	-11.18	16.80
	グローバル	-11.18	-1.82
	日本	-12.00	0.19
	業種別 公益	-12.98	0.58
	グローバル 除日本	-13.75	2.73
	日本 中小型株	-14.28	25.69
	債券	日本円	-1.09
グローバル 日本円		-1.79	-3.07
グローバル 社債 日本円		-8.04	-7.70
豪ドル		-8.56	-16.42
米ドル ハイイールド		-15.88	-11.84
ミックスアセット	日本円 安定型	-4.96	0.29
	日本円 バランス型	-8.23	-0.73
	日本円 フレキシブル型	-8.86	-5.22
	日本円 積極型	-10.57	-0.08
リート	日本	-25.34	-0.86
	北米	-25.55	-14.64
	グローバル	-27.45	-21.74
番外編	株式型 業種別 バイオ	7.94	-18.20
	コモディティ型 貴金属	7.63	13.75
	債券型 米ドル 政府債	7.21	4.30
	株式型 中国	0.08	3.27

純資産残高が10億円以上の上場投資信託(ETF)、オルタナティブ型を除くオープン投信について集計。騰落率は分配金(税引き前)を再投資したとして計算。ミックスアセットは、株式の割合が65%~100%を積極型、35%~65%をバランス型、0%~35%を安定型としている

■運用成績トップ5(2020年3月末までの5年間)

順位	ファンド名	騰落率(%)
1	東京海上・ジャパン・オーナーズ株式オープン	109.32
2	UBS中国A株ファンド(年1回決算型)	101.93
3	DIAM新興市場日本株ファンド(アセットマネジメントOne) = 申込受付を停止中	97.01
4	SBI中小型成長株ファンド ジェイネクスト	92.89
5	新成長株ファンド(明治安田)	85.91

上場投資信託(ETF)とオルタナティブ型を除く、純資産残高が10億円以上のオープン投信。騰落率は分配金(税引き前)を再投資したとして計算